

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット/コスモユニット)

事業所番号	2794000600		
法人名	社会福祉法人 香聖会		
事業所名	グループホーム宙(すばる)豊中		
所在地	豊中市永楽荘4-1-3		
自己評価作成日	令和5年4月13日	評価結果市町村受理日	令和5年6月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和5年5月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・職員への研修を重視し、知識の向上を目指しご利用者様へのサービスをより良い物とすることに力を入れています。施設往診医と連携を取り医療面での対応にもご入居者様にとって不安がないサポートを充実しております。日々のお食事は管理栄養士主導でバランスやバラエティーに富んだお食事を提供し、入居者様の楽しみとなっております。職員の介護福祉士資格修得者は7割を超えており、専門知識を有した対応をご入居者様に提供しております。専門学生の実習受け入れを積極的に行い、次世代の介護者の育成に力を入れています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、豊中市北部の丘陵地の環境の良い住宅街の一角の4階建て建屋の4階にある。1階には小規模多機能施設、2階3階には地域密着型特別養護老人ホームが併設され、事故身体拘束委員会等の各種運営委員会、職員研修を共同開催したり、消防合同訓練を実施したり、厨房での一括調理をするなど互いに連携して運営し複合福祉施設としての利点を生かしている。併設特養に配置された看護師が主治医の指示のもとに各利用者の健康管理を毎週定期的に行ったり、利用者の健康上に問題があれば、いつでも相談できるので家族にとっても安心であり、職員にとっても心強い環境である。事業所では隔月に利用者の写真と職員のコメント入りの「グループホーム便り」と利用者個々の月間介護記録「総合記録シート」を毎月家族に届けて喜ばれている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果 2ユニット総合外部評価結果（コスモスユニット）〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理事長が2020年6月に変更となり、事業所理念として「全従業員の物心両面の幸福の追求と福祉と教育を通じて六方笑顔を創造し社会の成長発展に貢献する」に変更となったため、職員の周知に力を入れている。	法人の理念を事業所の理念とし、パンフレットに記載するとともに玄関にも掲示して利用者、家族に周知を図っている。職員には入職時研修で説明し、且つ日常的に意識できるように各フロアに掲示して周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍前は運営推進会議に民生委員などに出席して頂いており、関係を築いていた。現在は地域の集まりに参加を可能な範囲で実施している。	複合福祉施設全体で自治会に加入し、地域の一員としてコロナ禍以前は施設夏祭りに近隣の子どもたちを招待するなどの交流を続けてきた。現在は自治会役員でもある地区民生児童委員2名の方が運営推進会議のメンバーとして参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍前は施設一階の交流スペースを開放し、地域の催しに使って頂いたり、施設催しに地域の方へ参加して頂いていた。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域の方に当ホームを理解して頂き、また意見を頂いていた。	本年より施設合同運営推進会議を1階の地域交流スペースで再開している。前回の参加メンバーは地区民生児童委員2名、家族代表、地域包括支援センター職員、施設側職員3名であった。会議は、施設側の状況報告と参加者との意見交換を行い、会議録としてまとめ、家族に送付している。	会議録には家族が意見・要望などを気軽に表明できる記入欄を設けて、多くの家族から様々な声が事業所や管理者に届く仕組みづくりを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入所希望者や見学者について紹介を頂いたり、運営についてのご指導を頂いている。	市役所担当部署とは運営に関する疑問があればその都度、電話やメールで相談し、助言をもらっている。市の主催する高齢者福祉ボランティア事業にも積極的に協力してボランティアを受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修、外部研修などから身体拘束の知識を深め、職員は常に介助方法の話し合いを持ちながら、身体拘束をしないケアを心がけている。	身体拘束廃止指針を整備し、施設合同の事故虐待防止身体拘束委員会を毎月開催し、事業所職員もメンバーとして参加している。身体拘束についての研修は法人共通のWEB研修で毎年2回実施している。利用者はフロア内は自由に移動できるが、安全のためエレベーターや階段は使用できないこととしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修、外部研修などから、高齢者虐待の知識を身に付け、虐待の無い介護に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入所申し込み時、家族や関係者に説明をおこなっている。また、職員には入職時の研修にて説明を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は契約書・重要事項説明書をご家族へ説明し、ご不明な点等を確認・説明した後に契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍後は面会も制限しており、日々定期的に電話やメールにてご入居者様の報告やご意見を伺っている。また、半年に一回家族会を開催し(オンライン開催にて現在は実施)、ご意見を伺う場を設けている。	コロナ発生以前は家族会を毎年開催していたが、コロナ禍の中は年2回のオンラインによる家族会を実施してきた。また、隔月に利用者の写真と担当職員の状況報告付き便り、毎月の総合記録シートを届けている。管理者は、コロナ禍時は日頃から電話やメールなどで連絡を密にして意見や相談を聞いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度は職員との面談を実施し、意見を聞くようにしている。また、管理者出勤時に出勤職員に声をかけるようにしている。	管理者は毎月の定例フロア会議や日々の業務の中で職員の意見・要望を聞いて、それに速やかに応えるように努めている。会議では介護方法についての意見が多く、日々の会話では勤務シフトの要望などが多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給・賞与にて、職員の実績を評価し、向上心をもって働いてもらえるよう、話しをする時間を設けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修・外部研修への参加機会を確保している。それとは別に、管理者が定期的に勉強会を開催し、知識習得の場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域が主催する研修や会合に極力参加するように心掛けており、その際に交流をするようにしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ずご本人様へのご挨拶をし、ご入居に納得されてない方であれば、納得されるまで入居を見合わせる。入居直後は特に厚く関わるよう職員へ指示を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	既存の方でも同じだが、入居後のご様子を必ず電話・メールにて報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご見学やご相談の際に、その方がグループホームの施設形態へのご入居が適正化を踏まえ、他サービスも含めた上で検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その時のご本人のご希望やご要望を伺い、入居前の生活と大きく変化がないように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍前は家族などの来訪された時は、居室ばかりにおらず、リビングで他の利用者や職員と共に過ごして頂く様努めている。今現在直接面会は実施していないが、リモート面会の案内を全ご家族に行い、機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍前は親族以外の方でも、気軽にご訪問できるようにご入居時にご説明をし、ご本人さまとお会いできるよう努めていた。	コロナ禍の中でも家族の8割ぐらいの方が来所して1階の地域交流スペースでアクリル板越しではあるが面会している。時には近所の知人が来所することもある。事業所では外出許可は通院のみであるが、途中馴染みの店などに寄り道をすることもあるようである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	当施設は横並びにユニットがあり、気のあった人同士が行き来している。また、イベント開催時は合同で参加している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご希望頂いた際は、御退去後でも相談に応じさせてもらっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活のなかで何気ない言動にしっかり耳を傾ける様に意識し、ご本人様からの聞き取りが困難な場合は、ご家族様・ご友人様よりお話を伺います。	管理者・計画作成担当者は、利用希望者・家族に、有料老人ホームからの場合は居宅介護支援専門員にも入所前に面談をして本人の生活歴や思い、家族の意向を聞いて記録し、職員間で情報共有をしている。入所後は本人からの思いを聞いた担当職員などが介護記録ソフトに日々入力をして職員間で情報共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前の面談にて、本人・ご家族から生活歴や様々な話を伺う様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に記録を取り、個別対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員や往診医からその方のご様子を聞き、介護計画を作成するよう心掛ける。	計画作成担当者は、担当職員等が日々入力している総合記録シートや介護日誌を確認、毎月モニタリングを実施し、医師や看護師の意見を基に3か月毎に介護計画を見直している。家族には来所時や電話で意向を事前に確認しておき、医師の診療時にサービス担当者会議を開き短期6か月、長期1年の介護計画を立てている。急変時は臨機応変に見直し対応をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録を取り、個別対応を心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のご希望に応じて、様々なサービスを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	包括主催のイベント等に出席を促している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	入居時に往診医を選択できるよう案内しており、御本人・ご家族のニーズに応えられるようにしている。	受診は、神経内科医(月2回、)整形外科(月1回)、歯科が週1回歯科衛生士の同行の元、訪問診療があり希望者が受診している。その他、作業療法士が週2・3回の訪問があり、希望者(5・6名)が訓練を受けている。看護師が週2回訪問して訪問医師との連携を取り、医療的なアドバイスを受け健康管理をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要時には入居者の状態の観察をさせ、医療的な意見を聞けるようにしている。また、定期的に健康管理を実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には定期的に面会に行き、利用者様の状態把握に努め、家族様の相談にのるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所される前に、当ホームでの、できる範囲のことは家族様に説明させて頂いている。重度化した場合には、再度、家族様や病院関係者と話し合いをしている。2022年度は施設での看取り対応の方が3名いらっしゃった。	契約時に「重度化した場合における(看取り)指針」を示して、事業所の方針を具体的に説明し同意を得ている。身体の変化により終末期に入ったとの医師の判断の基にそれぞれの訪問診療医から再度家族に説明を行い今後の在り方を決定している。看護師が講師になり年に1回看取りの研修が行なわれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを常備しており、すべての職員が実践できるよう努めている。また緊急対応の研修も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練は、年2回行っている。今後、自治会に協力をお願いしていこうと思っている。	法定の年に2回の消防訓練は日中・夜間想定の際に併設の3施設と合同訓練が行なわれている。建物は耐震構造であり高台に立てられているという点では地震や風水害の危険性は低い。備蓄は1階の厨房に、2週間分が保存され、自家発電設備が配備されている。今後は地域の防災訓練に参加の予定がある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入室する際は必ずノックをするよう、職員1人ひとりがよく注意し、対応している	法人の年間研修計画の中で接遇マナー、コンプライエンス研修があり全職員が学んでいる。羞恥心への配慮には、トイレの排泄時には小声で誘導がおこなわれ、利用者の呼びかけは”です・ます”口調の丁寧語を基本としている。重要書類は一階の事務所の鍵付き書庫に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	聞くことを大切にし、利用者様が、ゆっくり思いが話せる様導き、納得できる様支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴・昼寝・レクリエーションなど、利用者様1人ひとりのペースに合わせてながら支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	何を着るか本人に聞きながら、対応している。理美容時に御本人に希望を伺っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人お一人の嗜好には配慮している。定期的に外食レクを実施し、お好きな物を召しあがる機会を設けている。準備や片付けが可能な方にはテーブル拭きや食器洗いをお手伝いして頂いている。	食事は1階の厨房で一括調理され、フロアではご飯を炊き、汁物を温めなおして提供している。行事食は、七夕のソーメン、おひな祭りのちらし寿司など、おやつレクリエーションは、主に粉もの(たこ焼き、ホットケーキ)が提供されている。検食を行い食事委員会で内容を検討している。利用者はテーブル拭き食器洗い等を行っている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるカロリー計算のもと、献立・調理している。食事量・水分量は時間・量を記録し、少量の場合は補食して頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをして頂いている。一人で実施が難しい方には職員が介助している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の能力に合わせて、お声掛けやトイレへの誘導や、排泄のお手伝いを実施している。	排泄支援の基本は、座位が取れる利用者にはリハビリの一環として捉え、トイレ誘導により支援を行っている。日中は布パンで自立の方が5、6名、殆んどは布パンにパットで過ごしている。夜間は2時間ごとの見回りだが安眠を重視してIT機器「眠リスキャン」を活用し、眠りの状況を把握してトイレ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便も記録し、便秘の方へは、水分を多くとっていただくよう促したり、必要であれば往診医へ相談を実施する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に二回入浴できるよう曜日を設定している。	入浴は週2回の午前中、ひとり一人お湯を取れ変えて入浴している。利用者の身体状況により午後からの入浴も可能である。機械浴も設置されており8名の方が利用している。季節によりゆず湯、しょうぶ湯を楽しみ、おしゃべりをしながらリラックスしながらの入浴支援体制がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別で対応しており、眠れない場合などはお話しし、リラックスして頂ける様にしている。必要であれば、往診医へ相談し眠剤の処方も検討する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更時は往診記録に残すようにしており、職員へ確認を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや、食器洗いを毎日して頂いたり、毎日の体操を楽しみされている方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節によっては、散歩を取り入れている。花見・遠足などにいたり、外食などの希望がある場合は、できるだけ対応しており、家族様にもご協力頂いている	コロナ禍の中で日常的な外出支援は無くなり、居室に備え付けられたベランダに出て、おしゃべりを楽しみながらの日光浴が行なわれている。	コロナ禍の中ではあるが、5類になった昨今、人通りの少ない時間帯、少人数等での近隣散歩を再開されることを期待する
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は施設として、原則お断りしている。ご本人に不便や迷惑がかからないよう必要物品はすぐにご家族に依頼、もしくは職員が購入し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があった時には、電話を取り次いだり、年賀状・暑中見舞などを書いて頂いている。数名の方は携帯電話を所持し、居室で使用されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に沿った装飾を随時行い、季節を感じてもらえる様にしている。日中は太陽の光が入りやすく、明るいフロアであり、温度や湿度にも配慮している。	共用のリビングには空気清浄機が設置され、3人掛けのソファでは気の合った利用者がおしゃべりを楽しみ、壁飾りには職員とともに作った折り紙の季節の花が飾られている。食卓は時には利用者同士のトラブル回避のため1方向を向いている。掃除も職員が毎日行われ清潔が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・椅子にて、1人または気の合った人同士で過ごして頂けるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時に家族様と話しをし、利用者様に安心して暮らして頂けるよう工夫している	居室には自動止水栓の洗面台、ベッド、チェスト、防災カーテンが設置されている。利用者は家族と相談してタンス、時計、カレンダー、家族の写真等思い思いに持ち込み、居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレには、大きく表札をあげ、わかりやすくしている		